

## 「医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂」への意見

平成 23 年 1 月 28 日

医師のキャリアパスを考える医学生の手会

代表 松本 紘太郎

われわれ医師のキャリアパスを考える医学生の手会は、「医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂」によって最も大きな影響を受ける医学生の立場から、本改訂の内容の再検討を要求し、そのための意見を申し述べる。

### 2. 地域の医療を担う意欲・使命感の向上への意見

地域の医療は人材・資源の不足に悩まされ、部分的に医療崩壊に陥っている地域もある。早急な対処に加えて、長期的にはこれからの医療を担う学生に対して地域医療について教育することは不可欠である。

現行のカリキュラムの下では、地域医療を実践する人材が十分に育っているとは言えない。現在の教育でも地域医療について学ぶ機会はあるが、あくまで公衆衛生マインドから地域医療について学ぶにとどまり、その現状に共感し考えることはあっても当事者として自らに関わることには繋がらないのが実情である。

私たちは医療の基幹となる地域医療を守る為に関る条項を増やすことに強く賛同し、コアカリ改訂案に盛り込まれた「地域の医療を担う意欲・使命感の向上」がその一助となることを強く期待する。その上で、以下の改訂項目について具体的内容の検討・提示を要求する。

#### 改訂項目

<(3)「G5 地域医療臨床実習」>(p.20)

実習形態:

学外の地域病院、診療所、社会福祉施設など→学外の地域病院(臨床研修病院を含む)、診療所、保健所、社会福祉施設等の協力を得て、「地域医療臨床実習について、入学後早期からの「早期体験学習」、「衛生学・公衆衛生学実習」等も含めた段階的・体系的な位置付けとすることが望まれる。また、必要に応じて「臨床教授制度」等を利用する。

上記改訂項目についてその趣旨には賛同するが、実習を新たに導入するのであればその質が鍵となる。現在の教育体制のまま、ただ単に学生を地域に派遣するのではなく、地域医療の魅力を体感出来、かつ将来自身がどのように地域医療に関わっていくのかを模索出来るような実習を期待する。カリキュラムの改訂とあわせたバックアップ体制の構築を要求する。